

読書の葉

No.147

田園調布学園
中等部・高等部
図書委員会



目 次

「くまのがっこう」シリーズ作者 あいほらひろゆきさんへインタビュー	P. 2
「私は誰でしょう」クイズ	P. 4
ぬいぐるみお泊り会	P. 6
本か、映画か、ドラマか。～映像化された作品たち～	P. 7
なでしこ祭 きらめ 煌く言葉をさがして	P. 8
図書館今日このごろ・編集後記	P.10

「くまのがっこう」シリーズ作者 あいほらひろゆきさんへインタビュー

私たち図書委員はこのたび、「くまのがっこう」シリーズの作者、あいほらひろゆきさんに紙面インタビューをさせていただくことができました。あいほらさんは、本校生徒の保護者でもあります。よく、図書館のカウンター前にあるジャッキーのぬいぐるみを見て、「なつかしい!」という声を聞きます。今の中高生の中には、小さいころ読み聞かせしてもらったという人も多いでしょう。インタビューでは「くまのがっこう」シリーズがどういった作品なのかも紹介していただきました。



あいほらひろゆきさん とは・・・

宮城県仙台市出身。早稲田大学第一文学部卒。長女の誕生をきっかけに絵本世界と出会い、2002年に初めて「くまのがっこう」を発表。アニメ「がんばれ! ルルロロ」の脚本も担当。

『くまのがっこう』とは・・・

12匹のくまのきょうだいが寄宿舎で過ごす姿を描いた物語です。12匹中11匹目までは男の子で、最後の1匹だけは女の子の「ジャッキー」です。挿絵に描かれた12匹のくまは、1人ひとり性格や顔が違っているので、違いを見つけるのもこの作品の魅力の1つになっています。

◀◀◀◀◀◀◀◀ ここからインタビュー ▶▶▶▶▶▶▶▶

① なぜ人間ではなく、くまを題材にしたのですか？

「くまのがっこう」を着想したのは、娘を保育園に送り迎えしているときです。そこで見た2歳前後の子どもたちは、頭が大きくて手足が短く、おなかがぽっこり出ているなど、まるでくまのぬいぐるみを見るようにかわいらしかったです。それで、登場人物を人間の子どもではなく、くまのぬいぐるみにしました。(登場人物たちに縫い目があるのは彼らがぬいぐるみという設定だからです)ただ、物語を書くときには、あくまで人間の子どもたちの世界として考えています。本当のくまの世界のことはよくわからないので(笑)。

② なぜ舞台を家ではなく寄宿舎にしたのですか？

寄宿舎が舞台なのは、「くまのがっこう」を保育園や幼稚園をイメージして書いているからです。子どもたちの「園」での共同生活、一緒にごはんを食べたり、お片づけをしたり、お

昼寝したり…先生が見守る中、自分たちだけで一生懸命頑張って暮らしている姿がとてもあたたかく、美しくさえあるように感じたのです。物語に大人を出さないのは、読者に絵本の外からジャッキーたちを見守ってほしいからです。実は最初、出版社から寮母を出すよう言われて描いてみたのですが、不気味なおばあさんになってしまってボツになりました（笑）。

③ 12匹の兄弟の性格はどのように考えたのですか？

お兄ちゃんたちの性格や容姿の違いは強く印象づけないようにしてあります。「ジャッキー」対「お兄ちゃんたち」の関係は、「子ども」対「大人」の関係でもあります。がんばるジャッキーを兄ちゃんたちがいつも励ましたり、助けたりするのはそのためです。大人も完全ではないので、お兄ちゃんたちもへボばかりしますが、ジャッキー（子ども）を応援したいという気持ちはいつも強く持っています。自分も含め、大人にはいつもそうあってほしいと思っています。その意味でお兄ちゃんたちは11人でひとりの人格とも言えます。

④ 今まで作家になってから大変だったことは？

作家という職業は、自分が理想とする世界をゼロから生み出す仕事です。いつも自分の願望の世界の中にいられるので、とても楽しいです。大変なのは、たくさん子どもたちが影響を受ける、そんな作品世界を自分が作り出すことへの責任です。「くまのがっこう」も今では、ただ書きたいことではなく「書くべきこと」を書かなければならなくなりました。その見極めがとても難しいです。それと、作家というのはふだん仕事をしてないように見えるらしく、娘によく「パパもたまには働いたら？」と言われて困りました（笑）。

⑤ 最後に生徒にメッセージをお願いします

ぼくは「くまのがっこう」に「日々のあたりまえの暮らしを大切に生きる」というメッセージを込めて書いています。だから、作品の中には食べるシーンと寝るシーンがよく出てきます。ジャッキーたちは、いつもおいしそうに食べ、気持ちよさそうに眠ります。生きる上で一番大切なのは、そういうことなんだとぼくは思います。日々のあたりまえの暮らしの充実が人生を豊かにし、未来への糧ともなるのです。ぜひ、みなさんにも「日々の暮らし」としっかり向き合い、「今」を大切に生きていってほしいと思います。

図書館に全シリーズ揃っています。興味がわいた人はぜひ借りに来てください！



A

“その夏、恵太が死んだ。”

ある年、そんな事から始まる夏の物語。
いつも恵太と過ごしていた美穂、大輝、舜、
莉乃の4人が“ハイ”に誘われ旅に出る。

恵太を亡めた5人の思いが交わる切ない
青春ミステリです。是非、読んで下さい。



B

剣で語れ!!

兵法を極めることに心血
をそそぐ“剣道オタク”の磯山台織
と、日本舞踊から転身し、勝敗には
こだわらない性格の西萩早苗。全く
正反対の2人が剣道通した先に見るもの
は。言葉じゃ表せないことは剣でぶつけて
語り合う、究極の青春部活ストーリー!!



C

自衛隊だって
同じ人間だ。

怪然により、パイロットから
広報室勤務になった空飛 × 何き話まりを運ぶ元花
記者を自衛隊で働く佐藤。
2人が挫折から成長する様子を描いた物語

D

少年少女が1つの目的のため
団結する青春ストーリー
飛行クラブの活動内容
空を飛ぶことを
目的とする
少年少女よ
夢に向かって
つばしれ!!!

中学1年生の海角が
誘われて入った“飛行クラブ”
そのクラブにいたのは、細馴染や変人
つげおり部員たち……。どうやって空を飛ぶの?
彼らは空を飛ぶことが
できたのか……?



少年少女
飛行倶楽部

卒業

飛ぶ少女

武士道
シックスティーン

空飛ぶ広報室

そして君のいない
九月がくる

私は誰でしょう 点結び版

解答はP10に掲載しています

すべて図書委員作成のPOPより。
()は作成者。

私は誰でしょう 本版

一人目

私の話では財布が喋ります。
私の話では人が死にます。

私の作者さんは様々なジャンル
を書いていきます。その中には映

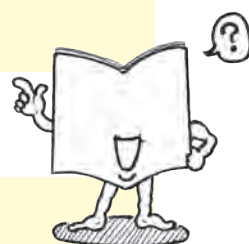
画化やドラマ化された作品もあ
ります。

私の話の視点は一つではありません。
せん。

私の話にはごんでん返しがあり
ます。

『長い長い殺人』

宮部みゆき 光文社



二人目

私の話の主人公は木葉草^{きはそうた}多。

久寿理島^{くすりしま}で生まれ、島で作られ
る「気休め丸」改良のため東京
に向かいます。これは彼と、彼

を取り巻く仲間たちの青春と成
長の物語なのです。薬についても
とても分かりやすい表現を使い、
知識が深まる作品です。おまけの
薬草・生薬辞典は必見です。

『わからん薬学事始』

まはら三桃^{みと} 講談社

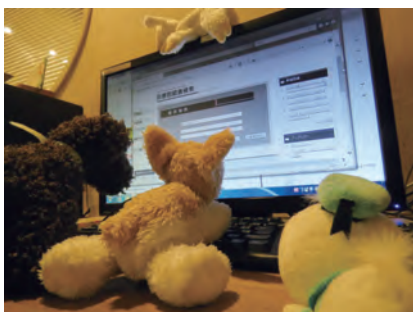
★ぬいぐるみお泊り会★



「zzzz……。」
おーい！みんな？そろそろお仕事の時間だよ！

みんなが帰ったあと、無人の図書館では何が起きていると思いますか？

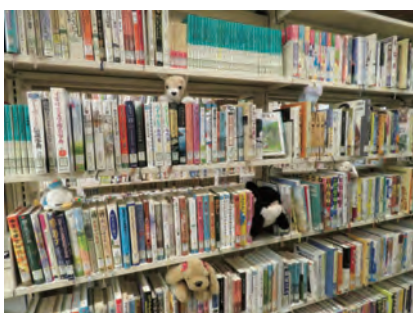
そこでは夜な夜なぬいぐるみたちが図書館でのひと時を楽しんでいました！委員が持ち寄ったぬいぐるみたちの『お泊り会』の様子を少しのぞいてみましょう。



お目当ての本は見つかるかな？
「あみぐるみの本をさがしたいな！」



二人で協力してお仕事。「カウンターの仕事は任せてね！返却するよ。」



本棚でかくれんぼ！
全員見つけられるかな？



図書館といえば読書！
それぞれ本に没頭中。



二人が読み聞かせを始めたみたい。
みんな「はらぺこあおむし」に興味津々！



会議を始めます。今回のテーマはこれ！
意見がある人は手を挙げて。

本か、映画か、ドラマか。

映像化された作品たち

毎年たくさんの本が映像化されていますが、今回は図書委員がおすすめを選びました。原作と映像化作品の違いを探しながら読んで（見ても）、面白いかもしれません。どの本も図書館にあるので、ぜひ読んでみてください。

『おきてがみきょうこ 掟上今日子の備忘録』

西尾維新 講談社



日本テレビで放送されたドラマの原作です。事件があると犯人ではないのにいつも犯人扱いをされる隠館厄介と、一回眠ると記憶がリセットされるため、一日で事件を解決する最速の探偵、掟上今日子のお話です。

ドラマでは、原作と違い、探偵社を小さな団体で経営しているのので、本にはない人間関係を知ることができます。また、掟上今日子为新垣結衣さんが演じ、原作とは一味違う愛らしい掟上今日子を見ることもできました。ミステリー好きの人も、そうではない人も楽しめる作品です。

『くちびるに歌を』

中田永一 小学館



映画化された作品です。長崎の五島列島にある中学の合唱部がコンクールの練習をしながら、一人ひとりが抱える問題を乗り越えていくというお話です。音楽教師代理の美人ピアニ

スト、柏木先生を新垣結衣さんが演じていました。

入部したばかりでまじめにやらない男子生徒と、男子を受け入れられない女子が協力し、課題曲の「手紙／拝啓十五の君へ」を歌うシーンでは、本からも歌が聞こえてくるようで、感動します。

『精霊の守り人』

上橋菜穂子 偕成社



NHKで放送されたドラマの原作です。綾瀬はるかさんが演じるバルサを含め、一癖も二癖もある人物が原作そのままに演じられ、「大河ファンタジー」の名にふさわしい圧倒的な映像美に、私は感動を覚えました。

本編、外伝を合わせると全十二巻という圧巻の物語ですが、読み始めればそのおもしろ

さに引き込まれます。不思議で、どこかに本当に存在しているかのようなその世界に、あなたも飛び込んでみてください。

『みをつくし料理帖』

高田 郁 角川春樹文庫



こちらもNHKで放送されたドラマの原作です。下がり眉が特徴の女料理人、濡は幾度となくわが身に降り注ぐ不幸をチャンスに変えて夢を叶えようとしてます。

暖かな人情に支えられる中で、日々精進する濡が作る和食は「トロトロ茶わん蒸し」や「ひとくち宝珠」など、名前を聞くだけでも美味しそうです。ドラマではその料理を実際に目にすることができるので、是非併せて読んでみてください！

なでしこ祭

～煌く言葉をさがして～

今年度のメインテーマ「Sparkle」にちなんで、私たち図書員会は、Splash～煌く言葉～をキーワードに、お客様とともに言葉にふれて味わっていただく企画を考えました。具体的には、読み聞かせ、豆本づくり、図書館ツアーの3つをしました。ここでは、読み聞かせをした生徒の感想や選んだ本を中心に紹介します。

読んだ本『くまのがっこう』 作 あいはらひろゆき 絵 あだちなみ

 p2のインタビュー記事も見て

（感想）私は普段小説を読むことが多いので、絵本を読むのは久しぶりでした。それに加えて今回は、子どもに読み聞かせするという事で、少し緊張してしまいました。ジャッキーの話は親しみやすく、絵もかわいらしかったので選びました。

（2014年、ブロンズ社）

読んだ本『14ひきのおつきみ』 作・絵 いわむらかずお

（こんな本）今日は十五夜。きれいなお月様。14ひきのねずみ一家がお月見の準備をしています。賑やかな様子に森の仲間もつられてやってきます。最後のお月見の場面では、一家がならんだ背中が描かれており、読者の私たちもねずみ一家になったような気分させられます。ほんわかした絵とともに日本の昔ながらの文化にも触れられる素晴らしい1冊です。

（1988年、童心社）

読んだ本『バムとケロのおかいもの』 作・絵 島田ゆか

（こんな本）一週間の真ん中、水曜日。月に一度のお買い物の日だからケロちゃんも早起き。友達のかいちゃんも一緒に車で市場に出発します。お店は、ドーナツ屋、布屋、キッチン用品店などから、ハムスターのお店というようなユニークなものまでたくさん。3人がお店を回っていたところケロちゃんが迷子に!?

（感想）この本は、自分自身が幼少期のころから読んでいたので選びました。読み聞かせに来てくださったお子さんたちも、お母さんと一緒に買い物に行くことがあると思います。そのときの自分を思い出し、重ねて楽しんでもらえたらと思いました。

（1999年、文溪堂）

読んだ本『バムとケロのもりのこや』 作・絵 島田ゆか

（こんな本）ある日、バムとケロは木苺をつみに森へ行き、古い小屋を見つけました。誰も住んでいないようなので、小屋を2人の秘密の小屋にすることに。なんでも屋のソレちゃんに手伝ってもらいながら、小屋の掃除や修理をします。そのうち「みんなで星を見る会」をすることになりました。

（感想）小さい頃から好きだったシリーズを読むことができてうれしかったです。読み聞かせをするという機会はあまりないので緊張しましたが、お客さんが真剣に聞いて下さり、楽しいなと感じました。

（2011年、文溪堂）

読んだ本『リサとガスパールのクリスマス』

作・絵 アン・グットマン・ゲオルク・ハレンスレーベン 訳 石津ちひろ

（こんな本）人間の子どもの同じようなクリエイティブな発想から生まれる2人の行動にひきつけられます。この話は、お世話になっている先生にプレゼントを渡そうとするお話です。プレゼントを作る時、2人はたくさんの失敗をしますが、ある事件から思いもよらないものに変えてしまいます。

（2000年、ブロンズ新社）

読んだ本『ねえ、どれがいい？』

作・絵 ジョン・バーニンガム 訳 まつかわまゆみ

（こんな本）この作品は、いくつかの選択肢の中からどれがいいか選ばせる形になっています。はじめは現実味がある選択肢ですが、だんだんそれはあり得ない！ と思うようなものが増えていきます。最後は自分のベッドで眠る場面で終わるので、小さい子なら寝るときの読み聞かせにぴったりです。小さい妹や弟がいるという人はぜひ一緒に読んでみてください。

（感想）抑揚をつけて語りかける感じで読めばよかったと思いました。平仮名ばかりですし、文字を斜め横から見ながら見て読むのは結構難しかったので、ある程度覚えて本番に備えればよかったなと感じました。

（2010年、評論社）

読んだ本『ずーっとずっとだいすきだよ』

作・絵 ハンス・ウィルヘルム 訳 久山太市

（こんな本）私がこの本を選んだ理由は2つあります。1つ目は小学校のころ読んで心に残っていたからです。主人公には、小さいころから暮らしている犬がいますが、その犬との関わりがとてもあたたかく、人と動物は心を通わすことができるのだと感じられます。2つ目は、主人公が“だいすき”と犬に隠さずに伝えているところが気に入っているからです。私は普段、照れて伝えられません。ペットだけでなく人間もいつかは死んでしまいます。生きている間に恥ずかしがらずに「だいすき」は伝えるべきだと思える本です。

（感想）聞いてくださる方は多くはなかったけれど、じっと聞いてくださってとても嬉しかったです。何かが心に残ってくださっていたらうれしいです。

（1988年、評論社）



図書館今日のこころ

▼さよなら 東校舎

今年度は、東校舎の建て替えが始まりました。それに伴い、地下一階にあった書庫の本(約一万冊)も引っ越し中です。本校の書庫には、調布高等学校時代からの歴史ある本があります。漱石全集の初版本には、「調布高女」の蔵書印が重々しくおしてあります。今では考えられないことですが、当時の学生の楽しみといえば、本を読むことくらいでした。(スマホもゲームもネットもありませんものね)電子書籍や人工知能も発達してきた今日だからこそ、紙の本のよさも感じます。新しい書庫は、本校舎に完成予定です。

▼ありがとう ボランティア

図書委員会では、ボランティア主催の「世界の子どもにワクチンを」(略して「せかワクぶっく」)に参加しています。これは、古本などを集めてそのお金で発展途上国の子どもたちにワクチンを送る

活動です。一冊の古本で二人の命を救えます。2015年度からの本校の募金総額は、2万1419円となりました。これは、856人分のポリオワクチンに相当します。読まなくなった本、使わなくなったゲーム、DVD、服やバッグを寄付しませんか?

くわしくは「せかワクぶっく」で検索。

▼サークル読書会ほか

2017年11月、國學院久我山高校にて『ヒコベエ』(藤原正彦 新潮文庫)、2018年2月には、富士見高等学校にて『ロボット・イン・ザ・ガーデン』(デボラ・インストール 小学館文庫)を読みました。

また、図書委員有志が5月に「高校生直木賞」の全国大会に参加します。(二井)



▼編集後記

今号を楽しんでいただけたでしょうか。今回は「くまのがっこう」シリーズの作者であるあいはいろゆきさんにインタビューすることができました。このシリーズを知っている方は少なくないはずです。私は、くまの兄妹に「日々のあたりまえの暮らしを大切に生きる」という哲学がこめられていることに感銘を受けました。

また、初の試みとなる「ぬいぐるみお泊り会」も実施しました。ぬいぐるみはすべて委員の家からやってきました。皆さんは、クマのプーさんのぬいぐるみが自身の本(Winnie the Pooh)を読んでいたことに気づきましたか。ちなみに、彼らが読んでいた本は、図書館に入っているの探してみてください。



「カウンター前にいるジャッキーのぬいぐるみ」

「わたしはだれでしょう」
p4のこたえ

A そして君のいない九月がくる

B 武士道シックスティーン

C 空飛ぶ広報室

D 少年少女飛行倶楽部

少年少女
飛行倶楽部

卒業

飛ぶ少女

武士道
シックスティーン

空飛ぶ
広報室

そして君のいない
九月がくる